

胃がんリスク検診を受けられた方へ

【判定結果】

- A 群 → 定期的な胃の検診を継続してください
- B 群・C 群 → 内視鏡検査と除菌治療をお勧めします
- D 群 → 年 1 回の胃の内視鏡検査をお勧めします
- E 群 → 除菌後状態です(胃がん発生の危険性は1/3に減少)
年 1 回の胃の内視鏡検査をお勧めします

通院中の方(内科・外科) …かかりつけ医療機関にご相談ください

除菌外来 富山県健康増進センターでピロリ菌除菌治療が可能です

【除菌対象となる方】

胃がんリスク検診で、判定が **B 群・C 群** と判定された方

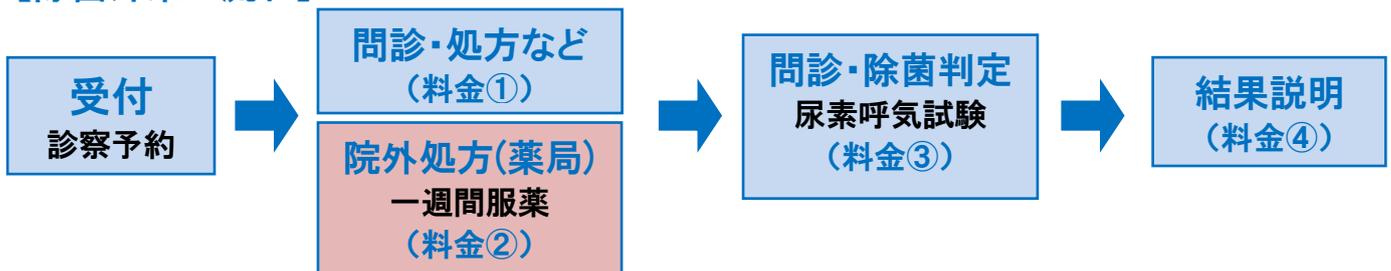
※原則、当センターで内視鏡検査を受けられた方または受けられる方に限ります



※1 ピロリ菌除菌治療の前に内視鏡検査は必須です

※2 ピロリ菌除菌治療は平成 25 年 4 月から「胃炎」に対しても「保険診療」となりました

【除菌外来の流れ】



【料金】除菌外来の費用は 3 割負担で 5,079～5,289 円程度です
除菌前の内視鏡検査は別途料金がかかります

(2013 年 3 月 31 日現在)

料金	10 割	3 割	1 割
①	1,910 円程	573 円程	191 円程
②	7,300～8,000 円程	2,190～2,400 円程	730～800 円程
③	6,510 円程	1,953 円程	651 円程
④	1,210 円程	363 円程	121 円程
合計	16,930～17,630 円程	5,079～5,289 円程	1,693～1,763 円程

ご予約・お問合せ
富山県増進センター
内視鏡担当 佐伯
Tel:076-429-7575
内線 540
月～金 13:30～17:15

ピロリ菌除菌外来 “Q&A” ～なぜ除菌が必要なののでしょうか？～

ABC(D)判定(胃がんリスク検診) ピロリ菌とペプシノゲン検査併診の方に

ABC(D)判定とは:ピロリ菌感染の有無とペプシノゲン値(PG 値)による胃粘膜の萎縮度によって胃がんになりやすいかどうかを ABCD の4段階で判定します。

	ピロリ菌	PG 値	考えられる胃の状態	胃がん発生の危険度
A 群	—	—	健康な胃粘膜で、胃疾患の可能性は低い	—
B 群	+	—	ピロリ菌感染はあるが、胃粘膜の萎縮は進んでいない	健常者の約 10 倍
C 群	+	+	胃粘膜が炎症を起こし萎縮する	健常者の約 20 倍
D 群	—	+	胃粘膜の萎縮が進み、ピロリ菌が胃に住めなくなる	健常者の約 120 倍

(腎不全、胃切除後、胃酸分泌抑制薬の服用等があると、検査結果が正しく出ないため判定保留となります)

Q1. ピロリ菌ってどんな菌？

A1. 正式名はヘリコバクター・ピロリ菌で、胃の粘膜に生息するらせん形の細菌です。感染経路ははっきり分かっていませんが、おそらく乳幼児期に口から感染すると考えられています。現在、50歳以上の日本人の約80%の人がピロリ菌に感染しているとも言われています。

Q2. ピロリ菌感染症とは？

A2. ピロリ菌の感染は胃粘膜に炎症を起こし、胃・十二指腸潰瘍、慢性胃炎、胃癌、マルトリンパ腫などさまざまな胃・十二指腸の病気の原因になると考えられています。近年の多くの研究から、**ピロリ菌を除菌することで、胃潰瘍や十二指腸潰瘍の再発を予防したり、胃癌の発症を抑制したりする効果があることが明らかになってきました。**

Q3. ピロリ菌感染者全てに除菌治療は必要？

A3. 2009年2月に日本ヘリコバクター学会は“ピロリ菌感染者全員に除菌療法を推奨する”ことをガイドラインで発表しました。**萎縮性胃炎の進行を抑え、その先の胃癌の発生予防という点から、除菌治療は必要と考えられます。**

Q4. 除菌前の内視鏡検査はなぜ必要？

A4. ピロリ菌感染から慢性胃炎が高度に進んでいる場合には、胃癌が合併していることが少なくないため、胃炎の程度を把握し、胃癌の有無を確認することが重要です。

Q5. 除菌療法はどのように行われるの？

A5. 3種類の薬剤を朝夕2回、7日間服用するだけです。胃酸分泌を抑制する薬(プロトンポンプ阻害剤)と2種類の抗生物質(アモキシシリンとクラリスロマイシン)を用います。きちんと内服すれば**70-80%の方が除菌に成功**します。除菌終了後2ヶ月以上経った後、除菌の成否を確認するための感染診断(除菌判定)を行います。

Q6. 除菌療法に失敗したら？

A6. 1回目の除菌が不成功であった場合、初回と同じく3種類の薬を7日間内服しますが、クラリスロマイシンをメトロニダゾールという薬に変更します(二次除菌)。二次除菌の除菌成功率は80-90%です。

Q7. 除菌療法の副作用は？

A7. 主な副作用には下痢、軟便(約10-30%)、味覚異常(5-15%)、皮疹(2-5%)があります。発熱や腹痛を伴う下痢、発熱、発疹、咽頭浮腫、出血性腸炎など治療中止となるような強い副作用は2-5%で認められます。

Q8. 除菌成功後は？

A8. 除菌に成功すると徐々に胃粘膜の炎症が改善して胃酸分泌が活発になるため、逆流性食道炎(胸焼けなどの症状)や十二指腸炎が起こることがあります。また、胃の調子が良くなり食欲がでて体重が増加してしまう方がいますので、特に糖尿病や肥満の方は自己管理が重要です。また、除菌成功により胃癌の発生率は抑制されると考えられていますが、ゼロになるものではありませんので、**定期的な胃の検診(内視鏡検査やバリウム検査)は継続しましょう。**

* リスク検診は5年間隔での測定をお勧めします。